

—記者説明会のご案内—

視覚障害者の駅プラットフォームからの転落事例データベース公開について

■日時:2016年8月25日(木) 14:00~15:00(受付開始/13:30)

■会場:成蹊サテライト・オフィス 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル1階124区(室)

拝啓 貴社益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

成蹊大学理工学部 大倉元宏教授は、この度、視覚障害者の駅プラットフォームからの転落事例データベースを公開致しました。つきましては、当データベースの開発目的、今後の研究展望等についての記者説明会を開催いたしますのでご案内申し上げます。

平成12年に「交通バリアフリー法」、平成18年に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)」が施行されました。本法の策定により、公共交通機関等での安全対策の整備は急速に進みましたが、依然、視覚障害者が鉄道のプラットフォームから転落する事故は発生しています。転落事故防止に有効な「ホームドア」の設置については、駅や路線ごとに課題があることやコスト面も含め、すぐに設置できるものではありません。

視覚障害者の転落重篤事故では特に事件性のない場合、「不注意で」「誤って」という見解が発表されますが、転落事故の詳細を分析した結果、注意をしても、視覚や触覚表示に対する誤解など視覚障害者ゆえの行動特性とその時の状況や環境により事故が発生しており、必然性があることがわかっています。

当データベースの公開は、視覚障害者の駅プラットフォームからの転落事故の原因を多角的に分析し対策を立案するとともに、晴眼者(視覚障害者関係者、鉄道事業者、行政者、一般市民等)の方々に広く実態の理解を促し、駅プラットフォームにおける視覚障害者の見守りを促進し、転落事故の防止に寄与することを目的としています。なお、当データベースの研究・開発にあたっては、2013年度(～2015年度)より科学研究費助成事業の支援を受けています。

当説明会では研究を統括する本学理工学部大倉元宏教授より、当データベース開発に至る経緯、収集データを活用した今後の転落事故防止の研究展望をはじめ、現在までに収集されたデータ事例の分析と問題解決についての提言などについてご説明をさせていただきます。

ご多忙とは存じますが万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

敬具

開催概要

日時: 2016年8月25日(木) 14:00~15:00(受付開始/13:30)

会場: 成蹊サテライト・オフィス 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル1階124区(室)

説明内容: データベース開発経緯・研究展望/収集データ事例分析・事故防止の提言など

発表者: 成蹊大学理工学部システムデザイン学科 大倉元宏教授

<本件に関するお問合せ先>

成蹊学園 企画室 広報グループ

TEL.0422-37-3517 FAX.0422-37-3704 E-mail.koho@jim.seikei.ac.jp